
第19回 山口県介護保険研究大会

開催要項

どうつくる？ 地域包括ケアシステム

～新たな連携・協働のカタチ～

1 趣 旨

我が国では高齢化や人口減少が進み、生活の様々な場面において暮らしにおける人と人とのつながりが弱まる中、専門職はもちろんのこと、行政、地域住民等と連携・協働し、それぞれの地域の特性にあった包括的な支え合いの体制づくり、いわゆる地域共生社会の実現が、ますます重要となっている。

なかでも、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、医療、保健、福祉はもちろんのこと、行政や地域住民とより一層の連携が必要とされている。

そこで、医療、保健、福祉のサービス事業者等が一堂に会し、19年目を迎える制度がよりよいものとなるために、さらにはサービスの質の向上と職員のスキルアップに向けて論議、研究するため「第19回介護保険研究大会」を開催する。

2 主 催

山口県介護保険関係団体連絡協議会

山口県医師会、山口県歯科医師会、山口県薬剤師会、山口県看護協会、山口県栄養士会、山口県医療ソーシャルワーカー協会、山口県理学療法士会、山口県作業療法士会、山口県老人保健施設協議会、山口県老人デイ・ケア協議会、山口県訪問看護ステーション協議会、山口県国民健康保険団体連合会、山口県老人福祉施設協議会、山口県地域包括・在宅介護支援センター協議会、山口県訪問介護事業所連絡協議会、山口県デイサービスセンター協議会、山口県介護福祉士会、山口県介護支援専門員協会、山口県社会福祉士会、山口県福祉用具協会、山口県在宅老所・グループホーム協会、山口県社会福祉協議会

【22団体で構成】

3 後 援

山口県、山口県市長会、山口県町村会

4 日 時

平成30年12月2日（日）午前10時から午後3時30分まで

5 会 場

山口県総合保健会館

〒753-0814 山口市吉敷下東3丁目1-1

TEL:083-934-2200 FAX:083-934-2209

【午前】<第1会場> 多目的ホール

<第2会場> 第1研修室

※研究発表と実践報告併せて2会場

【午後】<全体会> 多目的ホール

6 定 員

500人

7 内 容・日 程

時 間	内 容
9 : 0 0	受 付
1 0 : 0 0	開 会
1 0 : 1 5	研究発表・実践報告 1つあたりの発表、報告を15分、質疑、助言を5分とします。 1会場あたり4題の発表、報告を予定。 時間内に休憩15分、まとめ25分とします。
1 2 : 3 0	昼食・休憩
1 3 : 3 0	基調講演（一般開放） 「あなたは幸せに死ねますか？」 ～最期に受けたい心のケア～ 〈講師〉 介護デザインラボ 代表 玉置 妙憂 氏
1 5 : 3 0	閉 会

講師紹介

玉置 妙憂 (たまおき みょうゆう) 氏



看護師。僧侶。臨床宗教師。専修大学法学部卒業後、法律事務所で働くも「もっと人の近くで貢献したい」と退所。その後、国立東京病院附属看護学校で学び看護師、看護教員の免許を取得し、臨床で看護師として働きながら、国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健医療学専攻にて看護管理学修士、医療福祉政策学博士課程を修了。看護学校で教鞭をとる中、2012年6月に最愛の夫と死別。その後、高野山真言宗にて学び、僧籍を修得。看護師、僧侶として医療・宗教の分野から死を見つめ、伝えていく活動をスタートさせた。医療にも宗教にも偏らないバランスの取れた講座は、非常にわかりやすく、定評がある。主として在宅医療の現場では看護師として、ホスピスなどの施設では僧侶として活動中。さらに地域では、子供食堂を主催。福祉関係者だけでなく医療や宗教の関係者までもがつながる地域づくりにも力を入れている。子が学ぶ親の介護と看取り養老指南塾代表。僧名は玉置妙憂。

8 研究発表・実践報告内容 【第1会場】

【助言者】 広島国際大学 医療福祉学部 学部長 久保田 トミ子 氏

【司 会】 山口県老人福祉施設協議会 理事 辻中 浩司 氏

【研究発表】

「介護サービスの質の向上に関すること」

介護老人保健施設 しまた川苑 発表者：森本 浩乃

「利用者の姿が見える記録を目指して」

当苑はフォーカスチャータリングで記録を行っているが、日々マンネリ化しケアプランとも結びつかなくなっている。今回、利用者の様子が分かり、ケアプランにも結びつく記録を目指して取り組んだ結果をここに報告する。

「介護予防・生活支援に関すること」

一般社団法人 山口県介護福祉士会 発表者：船津 幸美

「介助動作に対応する体操「一介助一体操」の検討～リハビリ専門職と介護福祉士の相違点」

関節可動域や筋力を維持し、自立した生活を送る事を目的とした体操を介護場面に取り入れる為に、茨城県立健康プラザのリハビリスタッフと山口県介護福祉士会の体操インストラクターが検討した内容について。

「介護予防・生活支援に関すること」

山口県立大学大学院 健康福祉学研究科 発表者：林 瑞恵

「過疎地域で暮らす在宅高齢者に対する地域リハビリテーションモデルの検討」

過疎地域における生活環境を活かし、地域住民のつながりを大切にした過疎地域の地域住民の生活のあり方は、これからの地域リハビリテーションを考える上で、一つのモデルケースになると思われる。今回の研究は、過疎地域において高齢者が在宅生活を長く続けることができる要因を明らかにし、これから過疎化がより進展していく地域のリハビリテーションモデルを検討することを目的とした。

【実践報告】

「連携・協働に関すること」

公益社団法人 山口県歯科医師会 地域保健委員会 報告者：市川 洋一郎

「ICTを活用した摂食嚥下リハビリテーション支援システム構築の試み」

老人保健施設で食事の際に撮影を行い、歯科と施設間の入所者情報共有システムの構築を試みた。クラウドを活用することで専門医からの助言も可能で、他職種連携また教育ツールとして活用できる可能性も示唆できた。

※ 大会当日の発表の順番は改めて決定します。

9 実践報告内容 【第2会場】

【助言者】 山口大学大学院医学系研究科保健学専攻 助教 大達 亮 氏

【司 会】 山口県地域包括・在宅介護支援センター協議会 理事 國吉 卓也 氏

【実践報告】

「連携・協働に関すること」

山口県訪問看護ステーション協議会 報告者：西田 亜紀子（管理者）

「山口県訪問介護ステーション協議会 柳井支部における災害対策の取り組みについて」

今回、訪問看護ステーション協議会 柳井支部では、周防大島町送水管破断事故による断水を経験した。災害対策について、近隣の訪問看護ステーション間でのネットワーク構築に向けた取り組みを報告する。

「連携・協働に関すること」

公益社団法人 山口県栄養士会 報告者：中川 初美（下関地域専門部会部長）

「口から食べることをみんなで考えよう1・2・3」

今、栄養士のみならず、多職種また市民自身にも、「口から食べること」を考えていただき、最後まで食を楽しんでもらえるようにするにはどうすればいいのかを、形態を中心に実践したこの4年間の取り組みを報告する。

「働き続けられる職場づくりに関すること」

社会福祉法人 松美会 アイユウの苑グループホーム 報告者：江藤 文彦

「チームの力を発揮させる、リーダーのあり方」

平均離職率25.8%の職場から、1.6%の職場へ劇的に変化させた取り組みとその変化によってもたらされた職員の成長、職員が生み出した素晴らしい成果を職員教育の視点から報告する。

「看取りに関すること」

一般社団法人 山口県作業療法士会 報告者：鈴木 健朗

「「生きた証」を支援する為の介入～家族という社会の一員として～」

「人は作業することで元気になれる」という基本理念のもと、対象者やその家族にとって意味ある生活行為の実現の為に働きかけている。作業療法士が支援するターミナルケアにおける社会との繋がりについて報告する。

※ 大会当日の発表の順番は改めて決定します。

10 参加費

2,000円〈資料代〉【大会当日、受付でお支払いください。】

11 参加申込方法

「第19回山口県介護保険研究大会参加申込書」に必要事項を記入し、下記へFAX又は郵送でお申込みください。

12 申込締切日

平成30年11月7日（水）必着

13 留意事項

- (1) 昼食については、会場で「お弁当（お茶付・税込み600円）」を斡旋いたします。
必要な方は、大会当日の受付時間内（午前9時から午前10時まで）に食券を購入してください。【参加費に昼食代は含まれていません。】
- (2) 発表会場の座席数には限りがありますので、発表時間により立見となることもあります。
- (3) 会館敷地内の駐車場につきましては、関係者専用となっています。来場者の方は下記「会場周辺地図」の専用駐車場及び臨時駐車場等を利用してください。
- (4) 駐車場のスペースに限りがありますので、参加にあたっては、公共交通機関の御利用や自動車の相乗りの御協力をお願いします。

14 申込み・問合せ先

山口県介護保険関係団体連絡協議会

〒753-0072 山口市大手町9-6（山口県社会福祉協議会 地域福祉部 内）

TEL(083)924-2828 FAX(083)924-2847

E-mail kaidankyo@yg-you-i-net.or.jp

【会場周辺地図】

